

市議会だより



●秋晴れも記録を後押し（男鹿市小学生陸上大会・9/20）

小学生躍動。全員が日頃の練習の成果を発揮し、全力で駆けぬけました。その積極性に心から敬意を表します。

～男鹿から東北に力を！～

◆9月定例会審議日程◆

21日	15日	14日	13日	12日	8日	7日	6日	5日	9月1日
一般・特別会計決算 （表決）	議会運営委員会	予算特別委員会	常任委員会・分科会	常任委員会・分科会	決算特別委員会	決算特別委員会	予算特別委員会	予算特別委員会	公営企業会計決算 （表決）
									本会議（議案上程）
									本会議（議案上程）
									本会議（一般質問）
									本会議（一般質問）
									本会議（議案質疑）
									予算特別委員会
									予算特別委員会
									本会議（議案上程）

記事内容

7月・8月臨時会・9月定例会から	… P 2～P 3
議案質疑	… P 3
決算特別委員会	… P 4～P 5
一般質問	… P 6～P 9
予算特別委員会	… P 9
常任委員会	… P 10
討論・表決状況	… P 11
編集後記・請願、陳情等	… P 12

7月臨時会
8月臨時会
9月定例会

7月臨時会は、7月12日に招集され、農業委員任命案19議案を同意しました。また、8月臨時会は、8月2日に招集され、みなと市民病院事業会計決算の認定など2議案を継続審査としたほか、複合観光施設建設工事請負契約締結案を可決しました。9月定例会は、9月1日に招集され、21日までの21日間の会期で開かれました。初日には、8月臨時会で継続審査していた、みなと市民病院事業会計と下水道・ガス・下水道・集落排水事業会計の両決算案を全会一致で認定しました。また、来年7月のオープンに向け整備を進めている複合観光施設の管理方法を定める複合観光施設条例案や一般会計補正予算案など7議案が市長から提案され、5議案を可決及び異議なしとしましたが、平成28年度一般会計及び特別会計の両決算案を不認定としました。

可決した主要議案
7月臨時会
●(その他)
農業委員会委員の任命
武田 一雄(男鹿中)
三浦 富美男(脇本)
加藤 和洋(野石)
加藤 與志元(脇本)
登藤 輝雄(北浦)
伊藤 淑榮(船川)
鈴木 和俊(五里合)
佐藤 景康(福米沢)
吉田 勇雄(弘戸)
三浦 秀悦(鶴木)
三浦 栄子(鶴木)
佐藤 正樹(角間崎)
鈴木 孫城(福川)
鈴木 豊則(弘戸)
目黒 千衣子(男鹿中)
蓮田 富美雄(野石)
吉田 陽一(脇本)
佐藤 広秀(野石)
伊藤 智男(五里合)

決算『不認定』

一般会計及び各特別会計— 解決への道筋見えず

※男鹿市議会会議録は男鹿市ホームページの議会のページでご覧いただけます。

7月臨時会
●農業委員任命案に同意
本市農業委員会委員が、7月19日をもって任期満了となり、農業委員会法改正に伴い、選出方法が選挙制と市町村長の選任制の併用から「市町村長の任命制」に変更後、初めて提案された農業委員任命案19議案に同意しました。

8月臨時会
●インバウンド促進
台湾トップセールス
東京オリシビック・パラリンピックを見据えたインバウンド対応施策の一環として、9月22日から3泊4日の日程で、秋田県知事、県内6市4町村の市町村長と秋田商工会議所など18団体が台湾から秋

田への誘客を図るトップセールスが実施されました。

●株式会社おがが創立
複合観光施設の運営を行う「株式会社おが」の創立総会が7月31日に行われ、会社設立までの経緯の報告や定款内容及び役員を選任等が決定されました。役員の内訳は取締役が5名、監査役は2名となっています。今後は設立登記を行い、運営会社「株式会社おが」がスタートします。

9月定例会
●北朝鮮の弾道ミサイル発射事案について
8月29日、北朝鮮西海岸より、弾道ミサイルが発射され、襟裳岬東方約1千180キロの太平洋上に落下する事案が発生しました。市民の皆様には、

防炎行政無線で弾道ミサイルの発射、通過、落下情報を伝達するとともに、市ホームページでも、落下情報を発信した際、緊急情報を発見した際、注意喚起を行いました。また、秋田県漁業協同組合4力所に漁船の出港状況、被害確認を行いました。また、漁船等への被害は確認されませんでした。

●風力発電に伴う、船越地区テレビ電波受信障害について
8月4日、テレビ電波受信障害への対応等に関して、発電事業者と船越町内会連合会との間で協定が締結されています。協定では、受信障害対策として、発電事業者が受信障害対策中継局の設置、戸別アンテナ調整等による改善を行うことなどが定められています。

●(その他)
複合観光施設建設工事請負契約の締結
9月定例会
●(決算認定)
平成28年度男鹿みなと市民病院事業会計決算 他1件

3年連続の

—平成28年度— ●いまだ

す。発電事業者は、対策に必要な設備の設置等、準備作業を進めており、9月以降、受信障害世帯を戸別に訪問し、アンテナ調整等により、順次改善を実施する事となっています。

●平成28年度一般・各特別会計決算不認定
一般会計、各特別会計の決算認定案の総額は、歳入275億3千685万5千円、歳出268億2千706万4千円、実質収支は6億2千96千円となっています。この

実質収支には、元税務課職員がの公金横領による現金不足額1千189万7千685円が含まれています。なお、平成27年度各特別会計決算において生じていた公金横領による現金不足額(2千988万7千円)は、一般会計で補てんしています。

市は、元職員に対し、損害賠償請求をしているものの、現在まで支払われていません。9月21日の決算特別委員会では、一般会計が賛成少数で不認定、各特別会計は賛成多

数で認定されましたが、続く本会議では、一般会計及び各特別会計ともに賛成少数により26・27年度に引き続き、不認定となりました。

◆議会人事
9月14日、欠員となった産業建設委員長及び副委員長を委員会で互選により、次のとおり決定しました。
◎委員長 船木 金光
◎副委員長 三浦 一郎

●(条例)
男鹿市複合観光施設条例の制定 他1件
●(補正予算)
一般会計予算(第5号)
●(主な内容)複合観光施設整備事業費1億6千699万円などを措置したもので、歳入歳出それぞれ2億6千750万円を増額するものです。

●(その他)
人権擁護委員の推薦
三浦 光博(鶴木)
吉田 諭(福川)

●(議員提出議案)
意見書1件

7月臨時会

農業委員会委員の選任方法

質疑 市内各地域の状況が反映できる公平な農業委員の配置について伺います。

答 国の示した要件に沿って応募者を募り、19人の定数に28人から応募がありました。選任にあたっては、これまでの選挙区制度で培ってきた各地域の定数を踏襲することとし、旧男鹿地区から9人、若美地区から10人を選出しました。なお若美地区の10人の中には中立委員1名が含まれています。

●(条例)
男鹿市複合観光施設条例の制定について
複合観光施設の指定管理者が行う業務内容及び指定管理料について伺います。
答 利用促進に係る業務として、単なる物品販売に止まらず、6次産業化を視野に産業振興の観点から、出品物に対する要望受付や作り方、基

議案質疑

これからの農業委員には農

地利用の最適化推進に向けた活動を期待します。
9月定例会
男鹿市商工業振興促進条例の改正について
質疑 条例改正に係る施設整備費補助金の具体的内容について伺います。
答 現行条例で規定している投下資本が2千300万円以上で、雇用が5人以上増えた場合の優遇措置に、新たに「施設整備費補助金」を加え、工場等の新増設及び設備投資を促進し、本市の産業経済の

発展と雇用機会の拡大を図るうとするもので、補助額は投下固定資産の取得価格の30%とし、上限を3千万円としています。

●(条例)
男鹿市複合観光施設条例の制定について
複合観光施設の指定管理者が行う業務内容及び指定管理料について伺います。
答 利用促進に係る業務として、単なる物品販売に止まらず、6次産業化を視野に産業振興の観点から、出品物に対する要望受付や作り方、基

公営企業会計 決算特別委員会

8月臨時会では、平成28年度の病院、上水道、ガス、下水道、農業集落排水及び漁業集落排水事業会計決算について審査するため、議会議長が議長を務める特別委員会(委員長・船木光光議員、副委員長・三浦一郎議員)を設置、付託し、継続審査としました。その後開催された委員会では、審査の結果、いずれも全会一致で認定しました。決算の概要と質疑から主なものを取り上げ、その要旨をお知らせします。

【概要】

病院事業の経営状況は、総収益26億7千280万9千953円10銭に対して、総費用26億4千631万7千855円で、差引2千649万8千746円の単年度黒字となりました。累積欠損金は16億5千177万2千264円で、昨年度より2千649万8千746円減少しました。

総収益6億5千219万4千875円に対し、総費用は6億1千663万6千872円で、差引3千555万8千301円10銭の黒字決算となりました。ガス事業の経営状況は、総収益5億6千862万1千401円10銭に対し、総費用5億1千09万6千444円で、差引1千753万3千757円の黒字決算となりました。

80万5千622円で、差引9千32万296円の黒字決算となりました。これは営業利益が赤字となったものの営業外利益が約7千400万円生じたことによるものです。漁業集落排水事業の経営状況は、総収益9千557万9千469円に対し、総費用は9千64万6千111円で、差引493万8千858円の黒字決算となりました。これは営業利益が赤字となったものの営業外利益が約7千200万円生じたことによるものです。

上水道事業の経営状況は、

総収益8億3千141万9千865円に対し、総費用は7億9千520万6千588円で、差引3千621万9千207円の黒字決算となりました。これは営業利益が赤字となったものの営業外利益が約3億4千円生じたことによるものです。

農業集落排水事業の経営状況は、総収益1億12万5千918円に対し、総費用は9千



市民病院の健康増進年報発表会。市民の健康づくりの推進を図るため、市民病院の健康増進年報発表会を開催しました。

◎病院事業会計

苦情対応について

病院窓口へ寄せられる苦情への対応について伺います。
【答】 市民病院では、1階玄関ロビーと3階・4階病棟に「意見箱」を設置し、意見を伺っています。内容で

救急医療体制について

救急医療及び夜間診療の現状と今後の取り組みについて伺います。
【答】 通年で医師1名を配置し、救急外来を実施しており、平成28年度は5千64人の受診がありました。夜間の受診者も多く、医師の負担増にならない体制づくりに取り組んでいきたいと考えています。

◎下水道事業会計

普及率、水洗化率

普及率、水洗化率
【答】 普及率は、水洗化可能人口を本市の総人口で除して算出しています。また水洗化率は、水洗化人口を水洗化可能人口で除して算出しています。

病床数削減の影響

病床数を32床減じたことによる経営への影響について伺います。
【答】 許可病床数を32床減じて145床にしたとしても、稼働病床数は、平成21年頃から既に145床で運営しており、経営への影響はほとんどありません。

電子カルテのメリット

これからの地域医療連携において電子カルテは必要不可欠なものであり、設備投資も多額になるが、電子カルテ導入による患者のメリットについて伺います。
【答】 カルテを電子化することにより、待ち時間の短縮や病気に対する理解度の向上等が図られ、医療サービスの向上につながっています。

【答】 救急外来については、現在医師1名体制で実施していますが、後方支援体制として内科医が自宅待機し、緊急の場合にはすぐ対応可能な体制を整えています。

一般会計及び各特別会計 決算特別委員会

【概要】

平成28年度一般会計の決算状況は、歳入172億3千793万2千643円、歳出168億6千249万6千502円で、歳入歳出差引額は3億7千543万6千141円となりました。このうち継続費及び繰越明許費の財源として8千978万5千231円を翌年度へ繰り越したため、実質収支は2億8千565万9千100円の黒字決算となりました。

また、健全化判断比率の4指標は、実質赤字比率、連結実質赤字比率とも赤字が生じていないこととなり、実質公債費比率は前年度と比較し0.9ポイント減の11.2%、将来負担比率は、前年度と比較し13.8ポイント減の11.70%となっています。

9月定例会では、平成28年度一般会計及び特別会計決算について審査するため、議会議長が議長を務める特別委員会(委員長・安田健太郎議員、副委員長・古仲清尚議員)を設置、付託しました。委員会では、市当局からの補足説明と監査委員から決算審査における総括意見を受けたのち審査を行い、審査の結果、いずれも不認定となりました。決算の概要と質疑から主なものを取り上げ、その要旨をお知らせします。

元税務課職員による

公金横領事件について

公金横領事件は、いまだ解決のめどが立っていないが、再発防止策及びチェック体制、収納事務に係る業務体制をどのように改善したか伺います。
【答】 不正をまねかない仕組みとして、領収書及び領収印の管理の徹底を行い、持ち出しの際には所属長の許可を得る形にしました。また通し番号付の領収書以外は使用しないことに改めました。改善策を職員が法令遵守の徹底という意識を持って継続することが重要と考えます。

町内会活動と環境整備について

市内のいたる所で、公道への草のみみ出し等私有地の管理が困難な状況が見受けられます。町内会活動等で環境整備に努めています。
【答】 町内会活動等で環境整備に努めています。

地域おこし協力隊の活動と隊員定住について

地域おこし協力隊の考えや思いをどのように把握し、どのような対応を行ってきたのか。また任期終了後の市内への定住が事業の目的の一つでもあります。今後の見通しを伺います。
【答】 隊員それぞれがいろいろな考えを持っており、毎週打ち合わせを開催し意思疎通を図っています。定住については、クリアすべき課題が様々ありますが、現隊員の中には工房を開く準備をしている方もおり、地域の活性化につながるかと考えています。



若美地区一斉道路清掃には多くの方から協力がありました。

財政健全化について

経常収支比率及び財政調整基金残高の目標達成に向けた方策について伺います。
【答】 財政健全化に向けた目標値として平成30年度に経常収支比率90%という数値を掲げていますが、現実的には達成し難い数値だと感じており、適正な財政規模を再度確認すべきと考えます。また財政調整基金の目標額は15億円ですが、現在高は約5億円となっており、財政状況が厳しく予算編成はどうしても基金に頼らざるを得ない状況ですが、可能な限り支出を抑制します。

がん検診コール・リコールの効果について

検診を受けない方を受診させることがコール・リコール事業の大きな目的ですが、効果について伺います。
【答】 コール・リコールの対象は、子宮がん検診、乳がん検診、胃がん検診で、電話やハガキによる受診勧奨で受診率向上を図るものです。平成28年度は、受診率は低いもののコール・リコール対象の3つの検診を249人が受診し、一定の効果がありました。



船木 正博 議員

観光地トイレの美化からの考察

観光地のトイレについては近年、施設はだいぶ整備がなされ景観が良くなってきていますがトイレ内清掃については、まだまだ十分でないところがあります。その状況はSNSにも投稿され実態をさらけ出されていました。行政としてどのような管理をしているのか伺います。

議員ご指摘のトイレは入道崎のことと思われます。対策については市でも協議をしていますが、ソフト面だけでなくハード面で限界にきている部分が大きく影響しているようです。30万円以上の補修については県で行うことになっており、来年度の事業に間に合うようお願いをしているところですが。

コミュニティ・スクールの効果は

推進にあたり生徒の教育環境にどのような貢献や影響があったのか伺います。

地域講師による実習の補助や授業支援が学習意欲の向上につながるのと同時に、図書の整理や花壇づくり、校地の樹木の剪定などの環境整備にかかわる活動が、子どもの豊かな育ちにつながっています。

男鹿市では何処でもやっているようなコミュニティ・スクールではなく、全国から注目されるような男鹿方式として、モデルになるようなところまで昇華させていただければ素晴らしいことです。全国から視察に訪れ、交流人口の増大にもつながります。やはり秋田県は教育です。教育委員会から男鹿市の活性化のためにも頑張ってくださいたいと思いますがいかがでしょうか。

男鹿市が目指しておりますコミュニティ・スクールは学校づくりが地域づくりに関連するコミュニティ・スクールで、これは恐らくほかの大きな特色、違いであるかと思えます。学校と地域保護者が総がかりで推進していくことで、地域教育力日本一のコミュニティ・スクールを目指してまいります。

その他の質問

- 人口減対策として廃校舎活用の可能性について
●学力テストと自殺率について
●男鹿市の景況感について



米谷 勝 議員

新農業委員選任について

農業委員会法が改正され、農業委員の選出は市長の任命制に変わりましたが、どのような過程で行ったのか伺います。

農業委員には28人から応募があり、「男鹿市農業委員会候補者評価委員会」で応募書類を審査した結果、応募者全員が農業委員として適任者であったことから、国が示した要件や女性・青年等の登用、地域バランスなどを考慮した複数の選任案を考案し、熟慮を重ね最終的に市長が判断しました。船越地区に従来の1人いた農業委員を置かないこととした理由について伺います。

男鹿中滝川雨水対策について

男鹿中滝川地区県道入道崎寒風山線の側溝が大雨のたびに溢れ農地に流れ込み被害を及ぼしています。また路肩が崩れ、路面には亀裂もあります。滝川河川改修事業は平成29年度完成予定ですが、完成に合わせた道路側溝整備等雨水対策について伺います。

県では、一部側溝の埋塞土砂の撤去を実施しています。引き続き未整備区間の工事実施に向けて要望してまいります。

森林整備について

将来の望ましい森林へ誘導する施策について伺います。

森林の保全に当たっては、水源涵養、土壌保全など森林の有する多面的機能を総合的に発揮させ、機能の充実と適正な農業の実施や健全な森林資源の維持造成が必要と考えています。今後、国の補助制度を活用した森林整備に努めるとともに、県と連携して林業経営の支援に取り組みます。

ナラ枯れ被害拡大防止について伺います。

平成28年度までの被害木の累計は1万2千本を超え、予防対策である樹幹注入と、駆除対策である煙燻処理や焼却、破砕チップ処理を実施していますが、被害木の倒木や景観の悪化が進行しています。このため「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用し、被害木の伐採を実施してまいります。

その他の質問

- 男鹿市体育施設の利用者区分、利用料金・管理の統一について



安田健次郎 議員

教育行政について

①新学習要領で道徳の教科化が取り入れられるがその対応は、②小学校から外国語活動や英語学習を取り入れるが、英語は環境上難しく、取り組み方が悪ければ、英語嫌いになることが指摘されるが十分な体制はできるのか。③家庭教育条例制度の動きがあるがどう考えるか。④スポーツ推進基本計画を定めることになっているが、市としてなぜ定めないのか。⑤スポーツの取り組みは親の関わりが大きく、子どもが入りたくても入れない環境などもある。また、いろいろなスポーツにふれる機会なども検討すべきでないか。⑥貧困家庭における子どもの教育支援が求められていると思うがその対応は、⑦教育勅語について市の見解は、などについて伺います。

⑧道徳の時間が「特別の教科」として位置づけられ、31年度から実施されます。⑨32年度から外国語活動が3・4年生で実施

され、5・6年生は英語を教科として行うこととなります。⑩法案が公表されていないため、お答えできません。⑪スポーツ推進については男鹿市総合計画と生涯学習推進計画を検証し、研究していきます。⑫スポーツの活動の在り方については、活動実施団体などと意見交換を重ね、スポーツへの加入促進に努めていきます。⑬貧困家庭への支援については、アンケート結果で「苦しい」との回答が6割を超え、市では「男鹿市子ども貧困に関する支援計画 おがごこ支援計画」を策定しました。⑭教育勅語は法制上の効力を喪失しており、学校教育は教育基本法等に従って行われるべきと考えます。

農業行政について

来年度から「米の直接支払い交付金」の10a当たり7500円が廃止され、稲作農家は大打撃です。支援策への対応は、また市全体として、どの程度の損失額になるのか。

市の「米の直接支払い交付金」は約1億5千万の減収が見込まれます。市としては30年度からの転付に係る「水田活用の支払い交付金」の継続・拡充を要望してまいります。

- 【その他の質問】
●公契約条例の制定について



三浦 一郎 議員

新農業委員任命問題

300ha以上の農地がある船越地区から農業委員に応募し、適任者として市が認めた方がいたが、結果1名も任命されなかったことについて、6月定例会から7月臨時会に熟慮を重ねたとしながらも配置しなかったことは問題です。①農業委員会候補者評価委員会は、市長に3案を示したとしていますが内容について伺います。

②国からの要件と地域バランスを考えて協議しようですが、国は農地面積と農業者数を基準に定数を定め、公平性・透明性をもっと進めるようにしています。船越地区は都市化が進み、農地の利活用や流動性からも農業委員の必要性が高いはずですが、一人も任命されず、両隣の弘戸・脇本地区はそれぞれ4人・3人と任命されており、国の指導に反しているのではないかと。③今回の農業委員の任命は、4月の市長選挙での船越地区の支援の雰囲気や当該者の対応

などからの結果で、農業委員適格性や公平性は関係ない別物の観点からの意趣返し（仕返し）ではないかとの声もあります。以前、旧若美地区の町長選挙の際には選挙結果に基づき町民や職員さえも差別扱いされていたと言われます。もしそれと同じならば悪例の意趣返しの亡霊が蘇ったと思われざるを得ませんがどうなのかわかります。

④このままでは男鹿市の未来に繋がらず、オール男鹿以前に「農業版オール男鹿」にもなりません。船越地区には特例として農業委員と同等の権限を持った委員を次期任期まで1名配置すべきと思いますが考えを伺います。

認定し3案を市長へ提案し判断を受けました。すでに19名を任命したので容弁は控えます。②船越・脇本地区は一体地区と捉え、万全を期して行政も両地区を一緒に対応しようと考えています。③意趣返しのことは当然念頭にないことですが、定数を19人と定め始まっていることから特定の地区に特別委員などを任命する考えはありません。

- 【その他の質問】
●町内会活動交付金制度について



進藤 優子 議員

胃がん対策について

胃がん発症率向上が難しい中で、胃がん発症者数を大幅に減らすためにも、ピロリ菌対策事業を推進すべきと考えますが見解を伺います。

【答】ピロリ菌対策の重要性は、十分認識していますが、国の「がん検診のあり方検討会報告書」では、引き続き有効性を見極める必要があるとされていることから今後の動向を注視していきます。

認知症対策について

認知症対策の現状と課題について伺います。

【答】地域包括支援センターへの認知症の相談や相談対応から認知症の早期対応、早期受診に結び付いたケースは増加傾向にあり、認知症の発症予防を含め、健康寿命延伸や介護予防事業を積極的に展開していきます。

【質】認知症サポーターへの最新の認知症対策の情報提供や介護・看護専門職及び医療関係者との連携強化などを推進し、見守りプログラム、ボランティア活動等、地域で活躍できる環境整備が必要と考えますが見解を伺います。

【答】平成27年度から認知症サポーター養成講座を開催しており、認知症サポーター数は1千650人となっています。また認知症サポーターへの情報提供については、今後「認知症サポーターステップアップ講座」を開催するなど、知識習得の機会を作るとともに、地域での自主的な活動がより一層活発に展開されるよう支援していきます。

災害発生時の情報伝達について

気象情報や避難情報、災害発生時の防災行政無線が聞こえないという声に対し、国では個別受信機の普及に乗り出しますが、この動きに対して本市ではどのように対応するのか伺います。

【答】防災行政無線の難聴地区で携帯・携帯電話等を持たない高齢者世帯には、優先的に個別受信機を無償貸与しています。今後、災害情報や避難情報を確実に伝えるため情報伝達の多重化整備を研究していきます。

その他の質問

【質】老朽化インフラの防災・減災対策について

【答】災害図上訓練(DIG)について

【質】複合観光施設建設と男鹿駅の移転について

複合観光施設建設と男鹿駅の移転について、市長はJR男鹿線との連携による誘客の強化や観光客の利便性の向上が期待されるとしていますが、正式に協議するにすれば事前に議会と地域への協議が必要であり、その後JRと話し合いをするのが順序と考えるが、市長の考えを伺います。

男鹿駅移転ー議会と地域への協議を

【質】複合観光施設建設と男鹿駅の移転について

【答】複合観光施設により近い位置に移転され、頭端型に変更されることによりアクセスが向上し両施設が連携した空間が創出され利用者の利便性が向上が見込まれることから、将来的な駅舎の移転が望ましいと考えています。

【質】複合観光施設建設と男鹿駅の移転について



伊藤 宗就 議員

観光振興と現況の把握について

団体旅行より個人旅行が多いと言われていますが、温泉郷や寒風山等、本市の主要観光地では現在もバス利用者が少なくない伺います。観光の諸課題を把握するため重要な指標であるバス入込台数調査を過去に行ったことがあるのか伺います。

【答】バス入込台数調査は行ったことがありません。

【質】観光バスによる団体旅行誘致は観光産業において不可欠であるとして、調査実施について検討していきいます。

【質】船越の観光案内所において、大型バスが入りしづらいと伺っています。観光案内所としての機能を全うするために改良が必要ではないか。さらには平成30年竣工予定の複合観光施設において同様の問題が発生してはならないものであり、見解を伺います。

【答】男鹿観光の玄関口として可能性のある場所であり、不便な

国指定史跡脇本城跡について

土地公有化は計画期間が15年ですが、登記上の問題等、予算の肥大化に繋がるのではないかと懸念があり、期間の短縮はできないか伺います。

【答】可能な限り早期に公有化を進めていきます。

【質】城跡出土品を収蔵、展示が可能な施設設置予定について伺います。

【答】平成30年度以降の整備計画において、ガイダンス施設の設置が含まれており、財政状況なども勘案しながら検討していきます。

その他の質問

【質】育児用品購入費補助について

【答】育児用品購入費補助について

予算特別委員会

今定例会において、全議員で構成する予算特別委員会付託された一般会計補正予算(第5号)について審査し、原案のとおり可決すべきものと決しました。

男鹿駅移転が実現した場合の総合計画変更の考え方について

市長は様々な機会、JR男鹿駅移転に関する発言をしていますが、強い思いを抱き、大きな構想の中で事業を進めるのであれば総合計画に加えるべきと感じますがいかがか。

【答】複合観光施設及び駅舎移転の話が順調に進んだ場合、新たな人の流れによるにぎわいが創出され、駅周辺のにぎわいを船川地区の商店街活性化に結び付ける動きに繋がっていくものと考えます。

男鹿の良さ伝えるセミナーー移住セミナーの内容と今後の進め方について

県で移住に関する情報発信事業として、移住専門雑誌で県内の取り組みを紹介しています。10月号に本市の取り組みを8ページにわたって人を前面に出した形で掲載する予定で、雑誌発売直後に移住セミナーを開催し、雑誌に掲載された方々を対象に希望する方々とのマッチングを行います。

【質】県で移住に関する情報発信事業として、移住専門雑誌で県内の取り組みを紹介しています。10月号に本市の取り組みを8ページにわたって人を前面に出した形で掲載する予定で、雑誌発売直後に移住セミナーを開催し、雑誌に掲載された方々を対象に希望する方々とのマッチングを行います。

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査しました。質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

市長は公金着服事件に関し、議会とも協議し、年内には理解が得られるような方向性を示したいと発言されましたが、その具体的内容について伺います。

答 一つとしては、元職員が債務を認めていない損害額に係る訴訟についてです。

元職員が債務を認めていない債権名義の取得については、顧問弁護士から、裁判を進めていく中で個別に市で立証する必要がある、相当な事務量と時間が必要とされることと、対応等について方向性を示したいと考えています。

二つとしては、現実として多額の賠償額を回収できる見込みが薄く、市の施策の推進

にあたり、市民の皆様にご迷惑をかけていることへの対応についてです。

また、あわせて、訴訟に係る費用を市費から支出することは二重に迷惑をおかけすることから、これらについて市民、議会から理解を得られるような方向性を示していきたいです。

質疑 今般の9月定例会で補正予算に計上した移住支援事業について伺います。

答 今回の移住支援に係る補正予算は、10月に東京で開催予定の移住セミナー等に関するものです。

これは、本市で活躍している方々が男鹿の魅力を直接伝えるとともに、首都圏の方と意見交換等をしていただくため、セミナーの参加等に係る経費を措置したものです。

また、あわせて、男鹿に興味をもつていただいた方から、男鹿を訪れ暮らしを体験していただくための交通費として一件あたりの上限を2万円として、10件分を見込んだものです。

教育厚生

質疑 浄化槽設置整備事業費補助金について、下水道事業の認可を受けている地域でも本補助事業の対象になるのか伺います。

答 補助対象地域は下水道事業及び農業集落排水事業並びに漁業集落排水事業の認可を受けた区域を除いた区域内としていますが、認可を受けた区域であっても当面、整備が見込まれない区域については補助対象となります。

質疑 家庭系ごみの減量化がなかなか進まない現状で、燃えるごみの成分に変化がでてきているのではないかと。

答 家庭系ごみの総量は減少傾向にあるものの、人口減少により、一人当たりの排出量が減らない状況です。燃えるごみの成分のうち約50%が水分であるとの分析結果があることから、水切りの必要性についても周知に努めており、先日開催された「ねりんピック」会場内、台所から出る生ごみを押さえつ

けて、水分を排出する「水切り器」を無料配布しており、地道ながらも着実に普及、啓発活動を続けていきます。

質疑 全国学力・学習状況調査において、全国トップレベルの成績を維持・向上するための、教師への負担とすることの実情はあるのか伺います。

答 普段実施しているテストとは出題形式が異なるため、自主的に各校が過去問を解くことはあるが、よい成績を収めるため授業中に何時間もかけて問題を解かせることはしておらず、教師の負担となっているとは捉えていません。

産業建設

質疑 複合観光施設整備事業の現時点での施設整備の進捗よく状況について伺います。

答 本体工事の契約を8月臨時会で可決いただき、8月28日に安全祈願祭を実施しました。また施設の愛称の公募を開始し、募集期間を9月末までとしています。現在30件を超える応募があります。質疑 複合観光施設に急速冷凍設備の導入を予定している民間事業者は、現在国の助成金の申請をしていますが、探

択されなかった場合の対応について伺います。

答 急速冷凍設備は6次産業化推進のため必要な施設であり、是非でも整備したいと考えています。採択されなかった場合、急速冷凍設備棟の建設については、設備導入に向けた準備として進める方向で考えています。また設備導入については、来年度の導入に向けた準備や市で何らかの手立てをすることなど、申請の結果を待っている方が伺います。

質疑 今回の農業振興補助金を受給する方は、どのような事業をしているのか伺います。

答 肉用牛の繁殖に取り組む農業者及び冬期に葉物野菜の生産や加温による洋花の栽培に取り組む農業者です。質疑 上水道供給戸数が減少し、経営に影響を及ぼすようであれば、大潟村への水道水供給を進めていくべきでないかと。

答 滝の頭湧水の状況は、近年減少傾向にあり、この10年間で、平成27年度が一番少ない状態です。若美浄水場の浄水能力を下回る時期もありました。このようなことも踏まえ、どのような対応が可能か現在協議しています。

平成28年度一般会計及び各特別会計決算並びに複合観光施設に関する条例 平成29年度一般会計補正予算について討論がありましたので、その内容をお知らせします。

議案第85号・87号・89号に対する反対討論 佐藤 巳次郎 議員

平成28年度一般会計・各特別会計決算については、①公金横領による一般会計現金不足が生じていることや各特別会計への一般会計負担分など、いまだ解決への道筋が見えないこと。②国保・介護特別会計決算において実質収支黒字は財政調整基金へ積立せず、保険料「料」の引き下げなど、加入者の負担軽減へ活用するよう強く要望する。以上のことから議案第85号、第86号には反対する。

また、私はこれまで一貫して複合観光施設を道の駅にするのであれば、船川ではなく船越である。船川には図書館を核とした文化施設等、町なかの活性化策を提案しており、さらには複合観光施設建設はいまだ市民合意がなされていない状況であるため、議案第87号、第89号には反対する。

議案第63号から第81号まで 農業委員会委員の任命について
議案第85号 平成28年度男鹿市一般会計歳入歳出決算の認定について
議案第86号 平成28年度男鹿市特別会計歳入歳出決算の認定について
議案第87号 男鹿市複合観光施設条例の制定について
議案第89号 平成29年度男鹿市一般会計補正予算(第5号)について

Table with columns for 議案番号, 会派・議員名, 議決結果, and various council members (e.g., 三浦利通, 船橋金弘, 伊藤宗就, etc.).

※三浦利通議長は採決に加わりません。
※採決で賛否が分かれた案件を掲載しています。他の案件については、全会一致で可決されました。

交通安全推進議員連盟 による交通安全啓発活動

「秋の全国交通安全運動」期間中の9月22日、男鹿市議会交通安全推進議員連盟が交通安全に対する意識高揚と啓発を目的に、市内の保育園、幼稚園を訪問し、園児たちに交通事故防止を呼びかけました。



玉ノ池保育園



船川保育園



船越保育園

請願

● 地方財政の充実・強化を求める意見書提出に関する請願

いて陳情

● 「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について
● 新制度にともなう農業委員選出に関する要望書

陳情

● 「二ツポン一億総活躍プラン」を地域社会で実践するシルバー人材センターの決意と支援の要望
● 「地方財政の充実・強化を求める意見書」の提出につ

意見書

● 地方財政の充実・強化を求める意見書
可決されましたので、市議会の意見として、政府関係機関へ送付しました。

議員は公職選挙法により、選挙区内で答礼のための自筆によるものを除き、年賀状などのあいさつ状を出すことはできません。
皆さんのご理解をお願いいたします。

市議会議員一同

平成29年12月定例会日程（予定）

月	日	曜日	会議名	主な内容
12	4	月	本会議	市長提出議案上程（提案理由の説明）
	6	水		一般質問
	7	木		一般質問
	8	金		一般質問
	11	月		議案質疑、常任委員会付託、予算特別委員会付託
	12	火	予算特別委員会	付託議案の審査・分科会設置
	13	水	常任委員会・分科会	付託議案等の審査・現地調査
	14	木		（総務委員会・教育厚生委員会・産業建設委員会）
	19	火	予算特別委員会	各分科会委員長報告、質疑、討論、表決
			議会運営委員会	最終日の運営について
本会議		各委員長報告 （総務・教育厚生・産業建設・予算特別） 質疑、討論、表決		

▼ 収穫の秋を迎え、農家の方々は天候とにらめっこをしながらの多忙の毎日で、米や野菜、果樹の豊作の結果が出てくれればと祈らずにいられません。

▼ 今定例会では平成28年度の一般会計及び特別会計決算案の審査が行われましたが、3年連続の不認定となりました。大変不名誉な結果であります。公金横領事件による現金不足問題が市民の負担となることがあつてはなりません。また再発防止と合わせ、市民の多くが早期解決を望んでいるところであり、一日も早い問題解決に向けた努力が必要です。

▼ ナマハゲロックフェスティバル、ねんりんピック、市町村対抗駅伝、ジオパーク全国大会等、多くの方々が男鹿を訪れました。「来たれ男鹿へ！・なまはげの里へ！」市民のおもてなしが肝要です。

▼ 紅葉の秋から一日一日と寒さが身にこたえる時期を迎えます。健康には十分注意して毎日が「是好日」になれますように。

（佐藤巳次郎）

編集後記